朝鮮民主主義人民共和国の核実験に抗議する

2月12日、朝鮮民主主義人民共和国は2006年、2009年に続いて3回目の核実験を強行した。

私たちJR総連は、いかなる国であろうとも、いかなる理由があろうとも核実験を絶対に容認することはできない。ここに強く抗議する。

朝鮮民主主義人民共和国は朝鮮中央通信を通じ、

- ①合法的な衛星発射の権利を侵害した米国の極悪非道な敵対行為に対処する実質的な対応措置の一環である。
- ②小型・軽量化し、高い水準で完璧に実行した。
- ③多種化された我々(朝鮮民主主義人民共和国)の核抑止力の優秀な性能が物理的に誇示された。
- と、今回の核実験を賛美し、力を誇示しようとしている。

しかし、私たちは断言する。たとえ「アメリカへの対抗措置」であろうと、「高い水準で完璧」であろうと、「核抑止力の優秀な性能」であろうとも、全人類の生存と、全地球の環境にとって絶対に許されない核開発は決して抑止力ではない。限りない核軍拡競争の一途をたどるのであり、人類と地球上の生物にとって無用以外のなにものでもないのである。

今日、世界規模で軍縮や脱原発が叫ばれる中で、全世界が核兵器の早期廃絶 に向けて行動を共にするときである。「核の脅威」がヒロシマ、ナガサキ、第 五福竜丸、そしてフクシマで、人々を苦しめ続けている現実から目を背けては ならない。

私たちJR総連は、朝鮮民主主義人民共和国の核実験に対し、改めて強く抗議するとともに、全ての国の核兵器の廃絶を強く求めるものである。核兵器廃絶・原発反対・あらゆる戦争政策反対で闘うことを表明する。

2013年2月13日

全日本鉄道労働組合総連合会(I R 総連)